



第7回 宗像国際環境会議

MUNAKATA ECO INTERNATIONAL SYMPOSIUM



実施計画書
令和2年9月16日

宗像国際環境会議

[HTTPS://WWW.MUNAKATA-ECO.JP/](https://www.munakata-eco.jp/)

- 1、日 時 令和2年10月23日（金）～25日（日）
- 2、会 場 オテルグレイジュ 福岡県宗像市神湊 600 ロイヤルホテル宗像 福岡県宗像市田野 1303
宗像大社 福岡県宗像市田島 2331
- 3、主 催 宗像国際環境会議実行委員会
宗像漁業協同組合、筑前七浦の会、宗像環境団体連絡協議会、改革プロジェクト、キリンビール、シャボン玉石けん、TOTO、トヨタ自動車九州、トヨタプロダクションエンジニアリング、西日本電信電話、日本航空、日本製鉄、日鉄エンジニアリング、三菱商事、九州経済フォーラム、地域企業連合会九州連携機構、国際ロータリー2700地区、九州大学大学院工学研究院、福岡県立水産高等学校、九州のムラ、宗像観光協会、宗像大社、宗像市
- 4、共 催 国際文化芸術プロジェクト
- 5、後 援 環境省 福岡県
- 6、テーマ 常若 ～ 自然の摂理と生命の循環 ～
- 7、その他 関連イベント
- | | | |
|---------------------------|--------------|------------------|
| (1) Mankato-Eco Festivalu | 《主催》宗像国際環境会議 | 《共催》国際文化芸術プロジェクト |
| (2) 二木あい写真展 | 《主催》宗像国際環境会議 | 《共催》国際文化芸術プロジェクト |
| (3) 宗像大社神宝館特別展 | 《主催》宗像大社 | 《共催》国際文化芸術プロジェクト |
| (4) 常若モーニングマルシェ | 《主催》宗像国際環境会議 | 《共催》観光庁 |

常若 ～ 自然の摂理と生命の循環 ～

1. 古代から「循環」と「共生」という自然の摂理の中で畏怖の念を抱き、自然と謙虚に向き合いながら、森里川海へ感謝と祈りを捧げて暮らしを営んできた日本。その中で受け継がれてきた、“常若（とこわか）”という思想。
2. 常若とは、自然界では物質は絶えず循環し、生まれ変わりつづけることで維持されていることから、循環する時間の象徴であり、地球と人類が如何にお互いの生命を維持しつつ、共存すべきかを顕しています。
3. 宗像国際環境会議とは、国際社会が人類の平和と繁栄のために必要だと認めた、UNESCO世界文化遺産を有する宗像の地から「常若」の考えを実践し、世界に向けて発信していく場です。
4. また、「自然の摂理と生命の循環」に不可欠な海洋汚染や気候変動等の自然環境にかかわる問題を解決するため、#Ocean Recovery（海洋リカバリー）と#Ecosystem Resilience（生態系の再生）で世界と繋がろう、をキーワードとして、国内はもとより国際社会と緊密に連携することを目指していきます。
5. 7回目の開催となる今年の宗像国際環境会議は、世界遺産 宗像・沖ノ島国際文化芸術プロジェクトと連携し、新型コロナウイルスの影響下における地球と人類のあるべき姿を定義していきます。

背景

ダボス会議の2020年グローバル・リスク報告書によると、世界的なリーダーや政策立案者が次の10年間に起こり得るグローバル・リスクについて問われた結果、報告書の調査開始(2007年)以来初めて、上位5件の全てが下記、環境問題・気候変動に関するものであった。

- 異常気象（洪水、暴風）：Extreme weather events (e.g. floods, storms, etc.)
- 気候変動緩和・適応の失敗：Failure of climate change mitigation and adaptation
- 大規模な自然災害（地震、津波、噴火、磁気嵐）：Major natural disasters (e.g. earthquake, tsunami, volcanic eruption, geomagnetic storms)
- 生物多様性損失とエコシステムの崩壊：Major biodiversity loss and ecosystem collapse
- 人為的な環境破壊・災害：Human-made environmental damage and disasters

同報告書は、世界のリーダーに向け、地政学的な混乱が過ぎゆくのを待ち続けるのではなく、社会的分断を修復し経済成長を持続させるための早急な対策を講じなければ、気候危機や生物多様性の損失を回避することは不可能である、と警告している。

現状認識

海洋と海洋資源の保全と持続可能な利用の重要性の認識

- 赤潮の発生や微細なプラスチックゴミの検出等、海洋の汚染が地球規模で拡大している。
- 20世紀末の数十年で世界のサンゴ礁の約20%が失われ、現存のサンゴ礁の60%以上が絶滅の脅威にさらされている。
- 水産資源の3割弱が持続不可能な利用と評価されており、海洋での漁獲量は減少傾向にある。
- 地球表面の71%を占める海洋とその資源は人類共有の財産かつ生存基盤であり、上述の危機的状況に対応し、その保全と持続的利用を実現するためには、海洋という場(エリア/スペース)を対象にして、そこで発生する諸問題について全世界が一体的に取り組む必要がある。

2020年に本会議が目指す「常若」への取り組み

新型コロナウイルスによりダメージを受けた経済と社会の復興のための対策が新たな感染症のリスクや感染症の拡大を生じさせるようなものであってはならない。医療や公衆衛生の体制強化、拡充はもちろんのこと、問題を生じさせた元の社会経済のありように戻るのではなく、脱炭素で、海洋汚染の根源を断ち、壊れた生態系を復元するため「自然の摂理と生命の循環」をテーマに、「# Ocean Recovery（海洋リカバリー）」「#Ecosystem Resilience（生態系の再生）」をキーワードとして、持続可能な社会と経済を新たに構築するための視点に立って議論する。そして、危機を乗り越えるための連携と協力が不可欠であるとのメッセージを宗像から世界に向けて発信する。

#Ocean Recovery （海洋リカバリー）

これまで十分な成果が出ていなかった海洋環境問題を、新型コロナ時代の経済復興とともに、加速化して一緒に解決してしまおうという取り組み

#Ecosystem Resilience（生態系の再生）

人類によって損なわれた地球の生態系を、自然界に備わる復元力を向上させることにより自己治癒力の回復を目指す取り組み

【第1日目】 10月23日(金)
オテルグレージュ

受付 12:00～

開会式 13:00～13:30 【休憩 15分】映像
伊豆美沙子／宗像市長、小林正勝／宗像国際環境会議実行委員会会長

鼎談 ① 13:45～14:30
中井徳太郎／環境省事務次官、丹治富美子／詩人
【休憩 15分】映像

鼎談 ② 14:45～15:30
黒田玲子／東京大学名誉教授、進士五十八／造園学者、船橋晴雄／シリウス・インスティテュート代表取締役
【休憩 15分】映像

鼎談 ③ 15:45～16:30
伊藤弥寿彦／自然史映像作家、坪木和久／名古屋大学地球水循環研究センター教授、二木あい／水中表現家
【休憩 15分】映像

鼎談 ④ 16:45～17:30
岸本吉生／ものづくり生命文明機構常任理事、小川三夫／宮大工、エバレット・ケネディ・ブラウン／写真家
【休憩 15分】映像

■無料配信プログラム

10月中旬以降

①宗像版SDGs～海でつながる人とまち～
吉田啓助／東邦レオGreen×Town事業部事業部長、井川春奈／海千 常務取締役、谷口竜平／渡海屋、本田藍／宗像市地域おこし協力隊、田中保成／fabbit 代表取締役社長

②徳が循環される共生圏へーポストコロナの真の豊かさへの日本からの提言
野見山広明／カグヤ代表、飯塚ブロックチェーンストリート構想発起人、白駒妃登美／ことほぎ代表、春山慶彦／YAMAP代表、竹本吉輝／トビムシ代表、小柳俊郎／クロマニヨン代表、入戸野真弓／筑邦銀行デジタル戦略担当

■関連プログラム

9/18(金)～11/23(月)／宗像大社神宝館
宗像大社特別展「神々への美宝」

10/1(木)～31(土)／福岡市科学館
二木あい「海からのメッセージ」

MUNAKATA-Eco FESTIVAL 19:00～19:30

【第2日目】 10月24日(土)
宗像大社・オテルグレージュ 他

常若モーニングマルシェ 道の駅むなかた 07:00～09:00

受付 08:30～

09:00～10:00
宗像大社参拝・施設見学

シンポジウム ① 10:00～12:00
オテルグレージュ
中井徳太郎／環境省事務次官、安宅和人／慶應義塾大学環境情報学部教授、都築明寿香／都築学園グループ副総長、森勇介／大阪大学教授、浜崎陽一郎／Fusic取締役副社長
【休憩 15分】映像

昼食 12:00～12:30

シンポジウム ② 12:30～14:30
オテルグレージュ
中井徳太郎／環境省事務次官、岩元美智彦／日本環境設計会長、更家悠介／サラヤ 代表取締役社長、田口一成／ポーダレス・ジャパン代表取締役社長、浜崎陽一郎／Fusic取締役副社長
【休憩 15分】映像

バス移動 14:30～15:00

フィールドワーク 15:00～17:00

- ・竹漁礁づくり 鐘崎漁港
- ・漂着ゴミ海岸清掃 さつき松原海岸

MUNAKATA-Eco FESTIVAL 19:00～19:30

【第3日目】 10月25日(日)
宗像ロイヤルホテル 他

受付 08:30～

二日間の振返り 09:00～09:15
養父信夫／宗像国際環境会議 事務局長 【休憩 15分】映像

鼎談 ⑤ 09:30～10:15
清野聡子／九州大学大学院准教授、新井章吾／海藻研究所所長、上田勝彦／魚食普及人
【休憩 15分】映像

鼎談 ⑥ 10:30～11:15
川勝平太／静岡県知事、高橋政司／ORIGINAL Inc.執行役員、星野佳路／星野リゾート代表取締役社長
【休憩 15分】映像

鼎談 ⑦ 11:30～12:00
小川洋／福岡県知事、川勝平太／静岡県知事、高橋政司／ORIGINAL Inc.執行役員
【休憩 15分】映像

昼食 12:00～12:30

環境映像 12:30～14:00
KBC九州朝日放送、RKB毎日放送、NHK 【休憩 15分】映像

座談会 14:15～14:55
高橋政司／ORIGINAL Inc.執行役員、イスコ・モレノ／マニラ市長、西内ひろ／フィリピン観光大使、ジョン・フリッツ／駐日ミクロネシア連邦大使
【休憩 15分】映像

鼎談 ⑧ 15:00～15:20
高橋政司／ORIGINAL Inc.執行役員、西内ひろ／フィリピン観光大使
【休憩 15分】映像

宗像宣言・世界遺産共同宣言 15:30～16:00
伊豆美沙子／宗像市長、マンリオ・カデロ／サンマリノ共和国特命全権大使、小川洋／福岡県知事、川勝平太／静岡県知事(オンライン)
【休憩 15分】映像

バス移動 16:00～16:30

竹漁礁設置 鐘崎漁港 16:30～17:30

MUNAKATA-Eco FESTIVAL 19:00～19:30

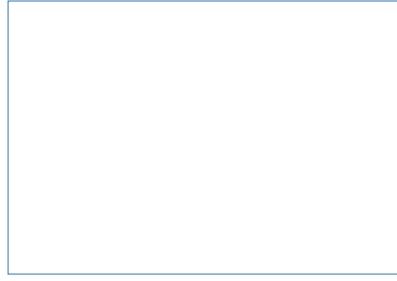
日 程 詳 細

第1日目 10月23日(金)			第2日目 10月24日(土)		
鼎談 ① 13:45~14:30	中井 徳太郎 丹治 富美子	環境省事務次官 詩人	鼎談 ⑤ 09:30~10:15	清野 聡子 新井 章吾 上田 勝彦	九州大学大学院准教授 海藻研究所所長、海中景観研究所所長 魚食普及人、元漁師・元官僚の魚の伝道師
鼎談 ② 14:45~15:30	黒田 玲子 進士 五十八 船橋 晴雄	東京大学名誉教授、中部大学特任教授 造園学者、福井県立大学学長 シリウス・インスティテュート代表取締役	鼎談 ⑥ 10:30~11:15	川勝 平太 星野 佳路 高橋 政司	経済学者、静岡県知事 星野リゾート代表取締役社長 ORIGINAL Inc.執行役員
鼎談 ③ 15:45~16:30	伊藤 弥寿彦 坪木 和久 二木 あい	自然史映像作家、昆虫研究家 名古屋大学地球水循環研究センター教授 水族表現家、ギネス世界記録保持者	鼎談 ⑦ 11:30~12:00	小川 洋 川勝 平太 高橋 政司	福岡県知事 経済学者、静岡県知事 ORIGINAL Inc.執行役員
鼎談 ④ 16:45~17:30	岸本 吉生 小川 三夫 エバレット・ブラウン	ものづくり生命文明機構常任理事 宮大工 写真家	環境映像 12:30~14:00	後藤 弘之	KBC九州朝日放送 RKB毎日放送 NHK
シンポジウム 10:00~14:30			座談会 14:15~14:55	イスコ・モレノ ジョン・フリッツ 西内 ひろ 高橋 政司	フィリピン マニラ市長 駐日ミクロネシア連邦大使 フィリピン観光大使 ORIGINAL Inc.執行役員
中井 徳太郎 安宅 和人 都築 明寿香 森 勇介 更家 悠介 岩元 美智彦 田口 一成 浜崎 陽一郎			鼎談 ⑧ 15:00~15:20	西内 ひろ 西内 まりや 高橋 政司	フィリピン観光大使 タレント、女優 ORIGINAL Inc.執行役員
第3日目 10月25日(日)			世界遺産共同宣言 宗像宣言 15:30~16:00	小川 洋 川勝 平太 マンリオ・カデロ 伊豆 美沙子	福岡県知事 経済学者、静岡県知事 駐日サンマリノ大使、駐日外交団長 宗像市長
二日間の振返り 09:00~09:15	養父 信夫	宗像国際環境会議事務局長	総合司会	葛城 奈海	ジャーナリスト+BB9:G26



中井徳太郎 なかい・とくたろう
環境省事務次官

昭和37年生。東京大学卒。大蔵省入省、主計局主査などを経て富山県庁。日本海学の確立普及に携わる。財務省理財局計画官、主計局主計官などを経て東日本大震災後2011年環境省。総合環境政策局総務課長、大臣官房会計課長、大臣官房秘書課長、大臣官房審議官、廃棄物・リサイクル対策部長、総合環境政策統括官、2020年より現職。



丹治富美子 たんじ・ふみこ
詩人、エッセイスト

埼玉県出身。浅間山の山麓の中で20数年暮らし、森で花を愛で鳥と遊び自然と共生しながら詩を書きオペラの脚本を創作。平成13年群馬県国民文化祭でオペラ「みづち」を製作、高い評価を得る。源氏物語、枕草子などの古典の研究者でもある。



黒田玲子 くろだ・れいこ
東京大学名誉教授、中部大学特任教授

東京大学名誉教授、スウェーデン王立科学アカデミー会員、TWAS Fellow、ローマクラブ会員、W20運営委員、東京大学教養学部・大学院総合文化研究科助教授・教授、2012年東京理科大学教授、2019年中部大学。ロレアルユネスコ女性科学賞、猿橋賞、日産科学賞、山崎貞一賞、全国日本学士会アカデミア賞、文部科学大臣表彰、内閣総理大臣表彰



進士五十八 しんじ・いそや
造園学者、福井県立大学学長

農学博士、造園学者・環境学者として景観政策、環境政策、地域計画で活躍。これまでに、日本学術会議会員（環境学委員長）、日本造園学会会長、日本野外教育学会会長、東京農業大学学長を歴任、2013年福井県里山里海湖研究所長、2016年福井県立大学学長に就任。紫綬褒章受賞、内閣府みどりの学術賞受賞。



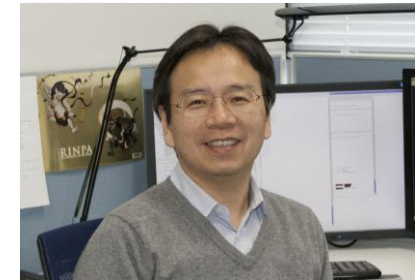
船橋晴雄 ふなばし・はるお
シリウス・インスティテュート代表取締役

1946年、東京生まれ。東京大学卒業後、大蔵省入省。国税庁次長、証券取引等監視委員会事務局長、国土交通審議官などを歴任。現在、シリウス・インスティテュート株式会社代表取締役。一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授。企業倫理分野を中心に、シンクタンク活動およびコンサルティング活動を展開。



伊藤弥寿彦 いとう・やすひこ
自然史映像作家 昆虫研究家

自然史映像制作プロデューサー、生物研究家。昭和38年、東京都生まれ。学習院、ミネソタ州立大学（動物学）を経て、東海大学博士課程前期中退（海洋生物学）。20年以上にわたり自然番組ディレクターとして世界中を巡り、数多くのNHK自然番組等を制作。曾祖父は初代内閣総理大臣、伊藤博文。



坪木和久 つばき・かずひさ
名古屋大学地球水循環研究センター教授

昭和37年生。気象学者。名古屋大学宇宙地球環境研究所教授。北海道大学理学部卒。北海道大学理学研究科、日本学術振興会特別研究員（北海道大学低温科学研究所）、東京大学海洋研究所助手、名古屋大学大気水圏科学研究所助教授、名古屋大学地球水循環研究センター助教授、准教授を経て2020年5月現在にいたる。2017年、日本人として初めて、航空機によるスーパー台風の直接観測に成功した。



二木あい ふたき・あい
水族表現家、ギネス世界記録保持者

ギネス世界新記録「洞窟で一番長い距離を一息で泳ぐ」2種目樹立。海中と陸上世界の架け橋として海や生物との一体感、繋がりを体現した唯一無二のバイオニア的存在。TEDxTokyoスピーカー、2012年情熱大陸「二木あい」ワールドメディアフェスティバル金賞。NHK特別番組「プレシャスブルー」がシリーズ番組となっている。



岸本吉生 きしもと・よしお
ものづくり生命文明機構常任理事

1985年通商産業省入省。中小企業経営支援課長、中小企業基盤整備機構理事を経て2014年九州経済産業局長。中小企業政策調整統括官、中小企業庁国際調整官。2003年から2年間、経済産業省の初代環境経済室長を務める。



小川三夫 おがわ・みつお
宮大工

1947年栃木県生まれ。1966年、栃木県立氏家高等学校卒業直後に西岡常一棟梁の門を叩くが断られる。飯山の仏壇屋、日御碕神社、酒垂神社で修業をした後、1969年に西岡棟梁の内弟子となる。法輪寺三重塔、薬師寺金堂、同西塔の再建に副棟梁として活躍。1977年、鶴工舎を設立。



エバレット・ケネディ・ブラウン
写真家

1959年米国ワシントンD.C.生まれ。88年日本に定住。日本芸術文化国際センター芸術顧問、文化庁長官表彰。epa通信社日本支局長を経て、12年より日本文化を海外に紹介する企画に携わる。著書『俺たちのニッポン』『日本力』ほか多数。



安宅和人 あたか・かずと
慶應義塾大学環境情報学部教授、ヤフー株式会社CSO（チーフストラテジーオフィサー）

データサイエンティスト協会理事。マッキンゼーを経て、2008年からヤフー。前職のマッキンゼーではマーケティング研究グループのアジア太平洋地域中心メンバーの一人として幅広い商品・事業開発、ブランド再生に関わる。ヤフーでは2012よりCSO。途中データ及び研究開発部門も統括。2016より慶應義塾SFCでデータサイエンスを教え、2018秋より現職（現兼務）。



都築明寿香 つづき・あすか
都築学園グループ副総長

福岡県生。都築育英学園理事長。00年インキュベーションセンターHatchery創設。07年より日本経済大学学長。16年リンデンホール中高校長に就任。都築国際育英財団理事長。日本文明研究所評議員。Asia 21 Young Leaderメンバー。



森勇介 もり・ゆうすけ
大阪大学教授

大阪大学卒業、同大学院工学研究科修了、大阪大学助手、講師、助教授、平成19年教授。結晶に関連する研究成果の事業化のために平成17年創品、平成28年創品超光を起業。平成25年創品應心はカウンセリングを手掛ける大学発の異色ベンチャーで心理学的アプローチによる創造力の活性化を提唱。



更家悠介 さらや・ゆうすけ
サラヤ代表取締役社長

1951年生まれ。1974年大阪大学工学部卒業。1975年カリフォルニア大学バークレー校工学部衛生工学科修士課程修了。1976年サラヤ株式会社入社。取締役工場長を経て1998年代表取締役社長に就任、現在に至る。1989年日本青年会議所会頭、(財)地球市民財団理事長などを歴任。



岩元美智彦 いわもと・みちひこ
日本環境設計会長

1964年鹿児島県生まれ。1987年3月、北九州市立大学経済学部卒業後、繊維商社では営業職に携わり、容器包装リサイクル法の制定を機に繊維リサイクルに深く携わる。2007年1月日本環境設計を設立。資源が循環する社会づくりを目指し、リサイクルの技術開発だけでなく、メーカーや小売店など多業種の企業とともにリサイクルの統一化に取り組む。



田口一成 たぐち・かずなり
ボードレス・ジャパン代表取締役社長

1980年福岡県生まれ。早稲田大学商学部在学中に、発展途上国で栄養失調に苦しむ子どもたちの映像を見て「これぞ自分の人生をかける価値があるテーマだ」と一念発起。米ワシントン大学留学を経て、2004年、大学卒業後にミスミに入社。2007年、ボードレス・ジャパンを創業。



浜崎陽一郎 はまさき・よういちろう
Fusic取締役副社長

高校まで大阪、大学から福岡。福岡にきた当初は「ちかっば」の意味がわからず、さすがは修羅の街と実感。在学中に知り合った現社長の納富と大学院の時に起業し、現在に至る。福岡ベンチャークラブ理事、福岡中小企業経営者協会理事。



清野聡子 せいひの・さとこ
九州大学大学院准教授

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系助手助教、教養学部広域科学科広域システム分科助手、助教専門を経て現職。専門は沿岸・流域環境保全学、水生生物学、生態工学。漁場の開発と保全の調整、希少生物生息地の再生、地域住民や市民の沿岸管理への参加、水関係の環境計画や法制度。



新井章吾 あらい・しょうご
海藻研究所所長、海中景観研究所所長

1955年栃木県足利市生まれ。1979年東京水産大学卒。在学中から日本各地で藻場等の調査を行う。1981年東京水産大学大学院水産学研究科修士課程修了。同年株式会社海藻研究所設立。海藻と動物の相互作用を主要研究テーマとし、藻食魚の食害による磯焼けの研究に精力的に取り組んでいる。



上田勝彦 うへだ・かつひこ
魚食普及人、元漁師・元官僚の魚の伝道師

昭和39年鳥島県出雲市生。長崎大学中より漁船で漁村を行脚。平成3年の入庁以来、瀬戸内海の漁業紛争調整、南水洋・北洋の調査捕鯨、太平洋マクロ漁場の開発、日本海の資源回復プロジェクト等に従事。島国の水産業を支える「魚食力」を再興するため、テレビ・ラジオ等を通じ、トークと料理でサカナの魅力伝える魚の伝道士。



川勝平太 かわかつ・へいた
経済学者、静岡県知事

日本の経済学者（比較経済史）、政治家。学位はD.Phil.（オックスフォード大学・1985年）。静岡県知事（第53-55代）公益財団法人世界緑茶協会理事長（第3代）、国際日本文化研究センター客員教授、麗澤大学比較文明文化研究センター客員教授、静岡文化芸術大学名誉教授。



星野佳路 ほしの よしはる
星野リゾート代表取締役社長

1960年生まれ。長野県出身。慶應義塾大学経済学部卒業後、コーネル大学ホテル経営大学院修士課程修了。1991年、星野温泉（現・星野リゾート）社長に就任。現在の運営拠点は、ラグジュアリーリゾート「星のや」、温泉旅館「界」、リゾートホテル「リゾナーレ」、都市観光ホテル「OMO」、ルーズに過ごすホテル「BEB」の5ブランドなど国内外で43か所に及ぶ。趣味はスキー。



高橋政司 たかはし・まさし
ORIGINAL Inc.執行役員

1989年 外務省。パプアニューギニア、ドイツなどの大使館、総領事館で日本の文化広報、日系企業支援などを担当。2005年アジア大洋州局で経済連携や安全保障に従事。2009年領事局でインバウンド政策を担当。2012年自治体国際課協会出向、多文化共生部長、JET事業部長。2014年UNESCO「世界遺産」。2018年現職。



小川洋 おがわ・ひろし
福岡県知事

1949年福岡県福岡市生まれ。1973年京都大学法学部卒業後、同年通商産業省（現・経済産業省）入省。外務省経済協力開発機構日本政府代表部一等書記官～同参事官（在バリ）、内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補室）、内閣官房食品安全委員会設立等準備室長、経済産業省産業技術環境局長、特許庁長官、内閣官房知的財産戦略推進事務局長、内閣広報官を経て、2011年4月福岡県知事当選就任。現在2期目。家族は妻と二男。趣味は読書、スポーツ観戦、音楽鑑賞。



KBC九州朝日放送

○○○○ ○○○・○○○
KBC九州朝日放送



RKB毎日放送

後藤 弘之 ごとう・ひろゆき
RKB毎日放送



イスコ・モレノ
フィリピン マニラ市長

マニラ市のスラム街、トンド地区で育ち、貧困層の家庭に生まれ、10歳からゴミ拾いをして生計を助け、レストランのゴミ箱から食べ残しを集めて夕食にするような幼少期を過ごす。19歳の時にテレビ番組のスカウトを受けて芸能界入りし、俳優として活躍。23歳でマニラ市議に当選。2019年に市長。



ジョン・フリッツ
駐日ミクロネシア連邦大使

英語に加えて、日本語に堪能。2008年4月より、駐日ミクロネシア連邦大使。地元チューク州の高校とアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ郡のモンテビスタ高校（英語版）修学後、1979年来日、翌1980年より東海大学で修学。爾後、修学や研修しながら駐日ミクロネシア連邦連絡事務所（大使館の前身）、駐日ミクロネシア連邦大使館で奉職しており、日本在住歴は40年以上。



西内ひろ にしうち・ひろ
モデル、タレント、フィリピン観光親善大使

2014年 ミスユニバース ジャパンコンテスト東京大会 グランプリ受賞。ミスユニバース ジャパンで準グランプリを獲得し、以降、モデルや女優・タレントとして精力的に活動。2018年より、フィリピン観光親善大使として、ボランティア活動やボラカイ島の清掃等を積極的に行い、環境問題に取り組んでいる。2018年ASEANツーリズムアワードジャパン インフルエンサー賞受賞。



西内まりや にしうち・まりや
タレント、女優

ファッションモデル、歌手、タレント、女優。福岡県福岡市中央区出身。デビュー以来ライジングプロダクションに所属していたが、2018年3月31日付で退所し、以降はフリーで活動している。実姉はタレントの西内ひろ。ラグビー選手の西内勇人・西内勇二兄弟とは従兄弟にあたる。



マンリオ・カデロ
駐日サンマリノ大使、駐日外交団長

イタリアで高等学校を卒業後、ソルボンヌ大学に留学。フランス文学、諸外国語を学ぶ。専攻は語源学。日本語を含め7ヶ国語を話す。ウィーン大学、シエナ大学、マドリッドのマンゴルド学院等の夏期講座や言葉・文化コースにて研鑽を積む。語源学を修了卒業した後、ミラノの大手新聞社コリエレ・デッラ・セーラの出版部門でアシスタントジャーナリスト、その後外交官。



伊豆美沙子 いず・みさこ
宗像市長

宗像市で育ち、OL生活を経て、家業の酒造業に従事。高校生までは、比較的、優等生？だったが、大学では演劇活動に没頭。周りの友達の助けにより、えんやらやと卒業。この学生生活が女子力を実感させる。平成23年福岡県議会議員、文教常任委員長、平成30年宗像市長。亥年、みずがめ座。思い込んだら一直線のB型。



養父信夫 ようふ・のぶお
宗像国際環境会議事務局長

昭和37年生。「九州のムラ」編集長として、地域に生きる人々の暮らしを中心に取材を重ね、ムラとマチを繋げる。また講演や地域づくりのアドバイザーなど、グリーン・ツーリズムやスローフード運動の啓発活動も積極的に行っている。



葛城奈海 かつらぎ・なみ
ジャーナリスト

ジャーナリスト、俳優。防人と歩む会会長、やおよろずの森代表。東京大学農学部卒業後、自然環境問題・安全保障問題に取り組み、森づくり、米づくり、漁業活動等の現場体験をもとにメッセージを発信。2011年から尖閣諸島海域に漁船で15回渡り、現場の実態をレポート。産経新聞『直球&曲球』連載中。

徳が循環される共生圏へ — ポストコロナの真の豊かさへの日本からの提言

古民家「聴福庵」飯塚市幸袋340-1



野見山広明

株式会社カグヤ 代表取締役社長

1976年、福岡県生まれ。神家総本家初代当主。「場道(BADO)」の家元。(株)カグヤ代表取締役社長。(一財)徳積財団 副理事長。懐かしい未来を実現し、子どもたちの憧れる生き方、働き方を実現するために日本の経営「暮らしフルネス™」を実践する。また日本の伝統風土の智慧を伝承し徳を譲り遺すために古民家の甦生、昔ながらの田んぼ行事の復活、ブロックチェーンによる徳積システムを開発する。また子ども主体の環境づくり「初心伝承」のコンサルタントとしても活躍中。趣味で炭をこよなく愛する。



白駒妃登美

株式会社ことほぎ 代表取締役

幼少より歴史や伝記の本を読み、福沢諭吉に憧れ慶應義塾大学に進学。卒業後、日本航空の国際線に勤務し、1992年には首相訪欧特別便に乗務。2012年、(株)ことほぎを設立し講演を開始。「こんな歴史の先生に出会いたかった」と口コミで広がり、コロナ前の講演・メディア出演依頼は年間200回に及んだ。コロナ後はオンラインで『和ごころ大学』を主宰。天皇陛下御即位奉祝委員会・奉祝委員、(公財)モラロジー研究所・特任教授等をつとめる。



春山慶彦

株式会社YAMAP 代表取締役

1980年生まれ、福岡県春日市出身。同志社大学法学部卒業、アラスカ大学野生動物管理学部中退。2013年にITやスマートフォンを活用して、日本の自然・風土の豊かさを再発見する“仕組み”をつくりたいと思い、登山アプリ「YAMAP (ヤママップ)」をリリース。国内最大の登山・アウトドアプラットフォームに成長



竹本吉輝

株式会社トビムシ 代表取締役

外資系会計事務所、環境コンサルティング会社の設立経営などを経て、2009年、株式会社トビムシ設立、代表取締役就任。全国各地で、森林の利活用を中心に地域資源を最大限活かし、持続可能な地域社会の新しい形の実現を目指す。「株式会社西栗倉・森の学校」「株式会社東京・森と市庭」「株式会社飛驒の森でクマは踊る」「株式会社内子・森と町並みの設計社」「株式会社八女流」等の設立・経営に関与。



小柳俊郎

株式会社クロマニヨン 代表取締役社長

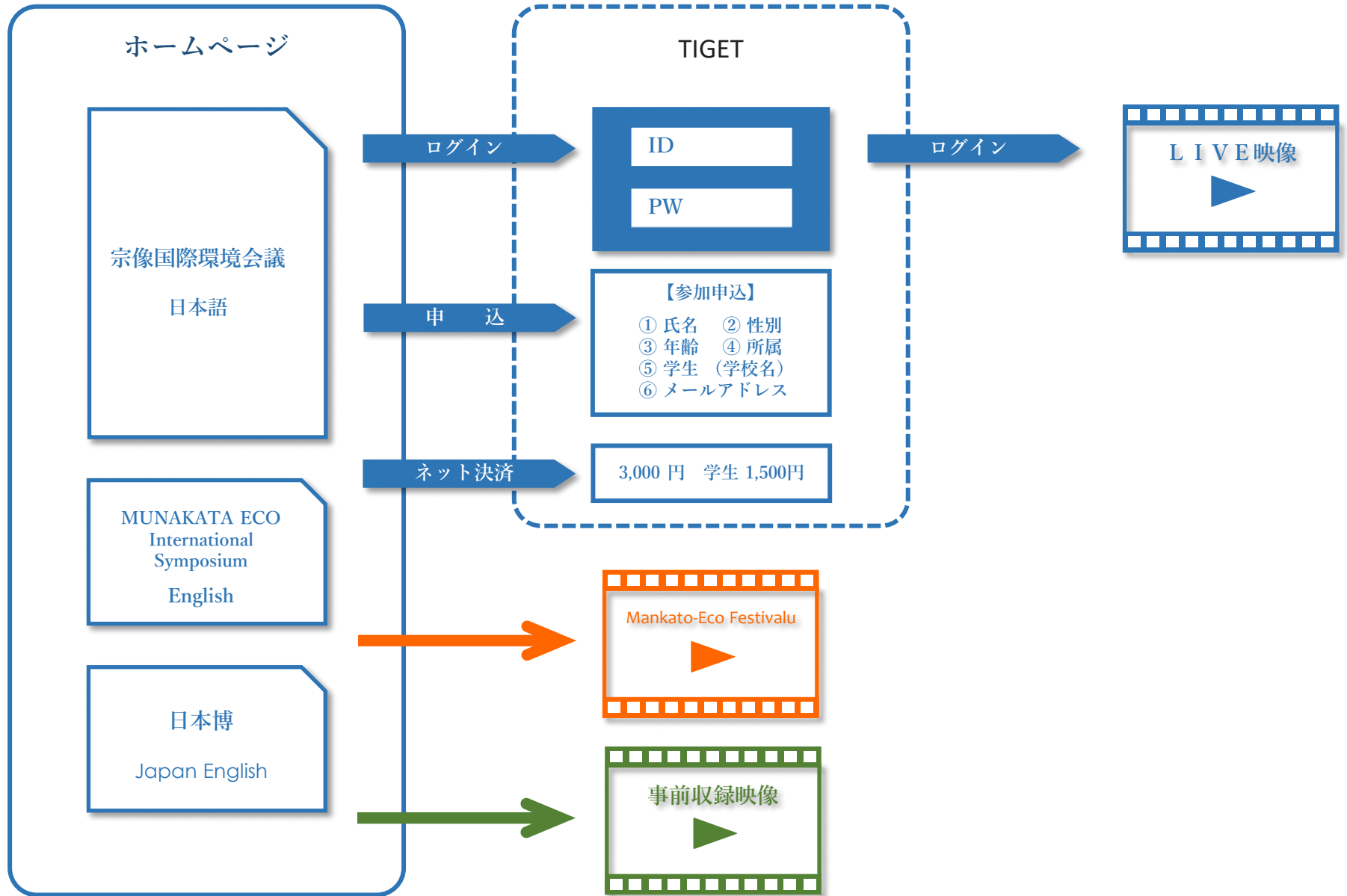
1969年福岡県大牟田市出身。同志社大学経済学部卒業後、レジャー事業会社に入社。11年間遊園地の企画宣伝の現場に携わる。2003年に外資系広告会社に転職。100社を超えるメディア戦略業務を経験。映画配給会社の業務では2014年のトム・クルーズ博多招聘を実現。2011年に創刊したビジネスマン向けフリーペーパー「BOND」の編集長は8年間担当。また福岡の八女茶を世界に発信する「八女茶ブランディングプロデューサー」「事業構想大学院大学 ブランド戦略特任教授」は現任。2020年5月ブランディング・カンパニー「CROMAGNON&Co.」を起業。



入野真弓

株式会社筑邦銀行デジタル戦略担当 (SBIネオファイナンシャルサービスズ株式会社 取締役)

早稲田大学政治経済学部在学中に、開発経済学を学んで世界の途上国を回るなかで、経済的な対策だけでは解決できない貧困や児童労働の現状を目の当たりにする。一方、足下ではバブル崩壊を受けて倒産が相次ぐ中小企業の窮状を知り都市銀行に入行。その後SBIホールディングスに転職し、住信SBIネット銀行を経て、筑邦銀行に着任。現在はSBIにて地域金融機関の価値強化支援を行うとともに、筑邦銀行行員として地域通貨の発行をはじめ、地元企業の支援に尽力している。



参加申込（有料）

- ① 氏名
- ② 性別
- ③ 年齢
- ④ 所属
- ⑤ 学生（学校名）
- ⑥ メールアドレス

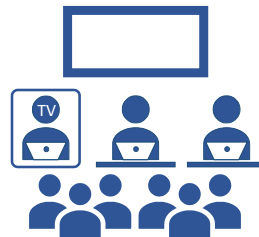
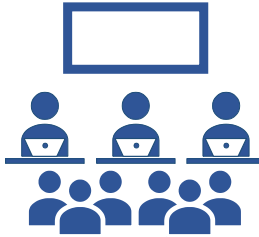
入力
フォーム

課金
システム

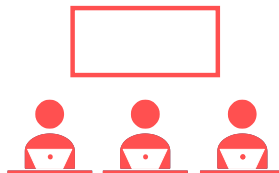
ID
システム



宗像国際環境会議



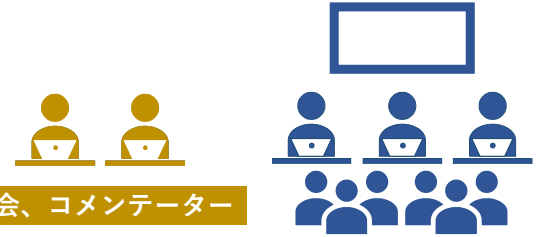
ネット参加



事前収録



宗像国際環境会議



司会、コメンテーター



Mankato-Eco Festivalu（無料）





第7回 宗像国際環境会議

静岡県富士山 世界遺産センター



宗像国際環境会議



共同宣言

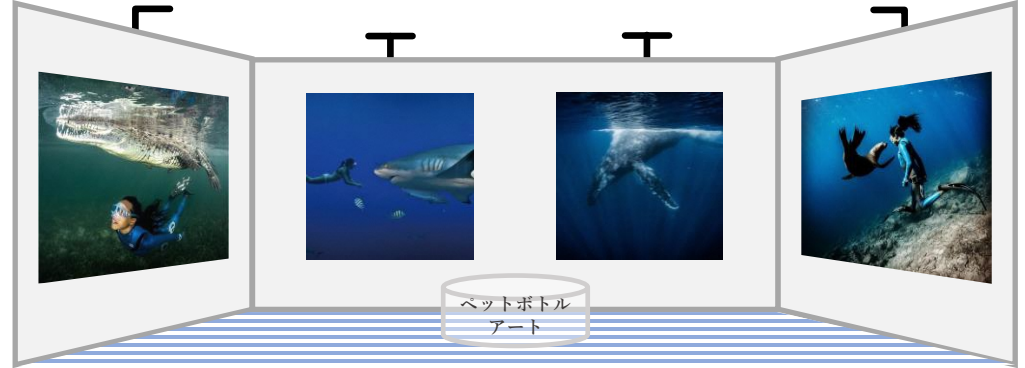
令和2年10月1日(木)～31日(土)

福岡市科学館 福岡市中央区六本松4丁目2-1



二木あい 水族表現家、ギネス世界記録保持者

ギネス世界新記録「洞窟で一番長い距離を一息で泳ぐ」2種目樹立。海中と陸上世界の架け橋として海や生物との一体感、繋がりを体現した唯一無二のバイオニア的存在。TEDxTokyoスピーカー、2012年情熱大陸「二木あい」ワールドメディアフェスティバル金賞。NHK特別番組「プレシャスブルー」がシリーズ番組となっている。



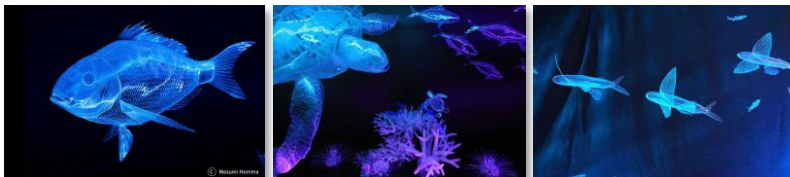
ペットボトルアート



女子美術大学絵画科卒業・同研究科2年終了後、2006年にペットボトルソフィストケイティドアート制作を開始。個展、東北復興支援作品など地道な創作活動に取り組む一方、ホテル・駅等、大型商業施設、アミューズメント施設各所などでは大型作品を多数出品。2012年、日本ホビー大賞 奨励賞受賞。

本間ますみ

ペットボトルアーティスト



映画上映 海獣の子供



埼玉県熊谷市出身。神奈川県鎌倉市在住。多摩美術大学美術学部絵画学科卒業。高い画力と繊細な描写で自然世界を描く。2004年、『魔女』により文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を、2009年、『海獣の子供』により第38回日本漫画家協会賞優秀賞、第13回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。

五十嵐大介

漫画家 『海獣の子供』



トークショー 《収録》

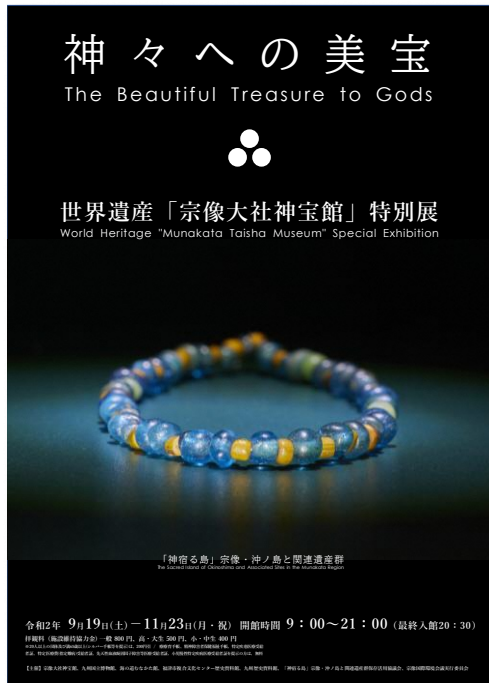
二木あい×五十嵐大介

- 1、概要 神宝館に収蔵された神宝の細部の美しさを強調し、古代の人々の美への追求と匠の技を演出する。
- 2、タイトル 神々への美宝 (仮称)
- 3、期間 令和2年9月18日(金)～11月23日(月) 午前9時～午後9時
- 4、共催 宗像大社 宗像国際環境会議 日本博
- 5、その他 期間中に境内の森に「神宝」の写真パネルを立て、神宝館への引き込み動線を演出する。

【写真家】山村善太郎

※ 出版社と交渉し、和英の写真集の出版を検討する。

現代アートとのコラボも検討



平成29年に世界文化遺産となった「神宿る島・沖ノ島」は、昭和29年からの調査によって、4世紀から9世紀にかけての国家祭祀の痕跡とされる神宝類が約10万点発見され、そのうち8万点が国宝に指定されています。

大和朝廷より捧げられた神宝の数々は、当時の最高技術で調製され、そのデザインは細部まで美しく、美術品そのものです。今回はその「美しさ」に焦点をあて、細部をご覧いただけるよう「神々への美宝」と題して企画しました。古代の造形美を是非ご堪能下さい。



アクセス

- 【公共交通機関をご利用の場合】
- ・西鉄バス(むなかた号)
- 「天神・日置園」から「宗像大社」まで約62分
- ・JR主要駅から東郷駅まで
- 「JR東郷多駅」から快速約30分、「JR小倉駅」からは快速約40分
- ・東郷駅から宗像大社までのバス
- 「JR東郷駅北口」下車、神楽止まり行きバス(宗像大社行)で「宗像大社」まで約12分
- 【お車でお願いします】
- ・九州自動車道
- 若宮インターから約20分
- 大宮インターから約25分

宗像大社神宝館
〒811-3502 福岡県宗像市三田233 TEL: 0984-62-1311



世界遺産「宗像大社神宝館」特別展
The Beautiful Treasure to Gods

World Heritage
"Munakata Taisha Museum"
Special Exhibition

令和2年 9月19日(土)～11月23日(月・祝)
開館時間 9:00～21:00 (最終入館20:30)
拝観料 (施設維持協力金)
一般 800円、高・大生 500円、小・中生 400円

www.munakata-taisha.or.jp



10月24日(土) 25日(日) 7:30 ~ 9:00 道の駅むなかた

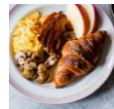
奥田政行 × 池田慎一 PRODUCE



奥田政行 イタリア料理人



池田慎一 イタリア料理人



玄米食パン
米粉パン工房 穂の香



宗像アカモク



レモンジャム
農家レストランまねき猫



宗像とよみつひめ



宗像たまご
ポッポハウスひろちゃん



宗像の元気つくし



宗像枝豆



宗像 地島椿油

